

# 平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立 的場中 学校 学級数 1 1

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標

他者とのかかわり合いから確かな力を育む

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

## 取組の概要

- 1 取組のきっかけ  
上位と下位の生徒との差の拡大。他者との係わり合いが苦手な生徒の増加。
- 2 取組の位置付け  
教務が中心となり学校全体で同一歩調で進めている。
- 3 取組の方法
  - A 言語活動を中心とした、各教科、総合的な学習の時間、各種行事、短学活等における表現力の育成。
  - B 各教科の年間指導計画の作成や見直し、繰り返しの学習や学び直しの機会の位置付け。各教科や担任による家庭学習定着への取組。学び合い活動を取り入れた学習展開の工夫。
  - C 前年度までの成果や課題の明確化。
  - D 「北海道教育の日」に協賛した、年に1回の地域公開授業。長期休業中における、保護者・地域の方による補習。

## 取組の成果と課題等

- 取組の成果
  - ・各学級や各教科、総合的な学習の時間などでの表現力の育成。  
(成果) → 校内の掲示物がとても工夫されたものになってきた。  
自分の意見や考えを、適切に相手に伝えられるようになってきた。  
イキイキと授業に臨む生徒が増えた。
  - ・年間指導計画の作成。繰り返しの学習や学び直し、家庭学習定着への取り組み。  
学び合い活動を取り入れた学習展開の工夫。  
(成果) → 新学習指導要領完全実施初年度であったが、ゆとりをもって指導事項を指導し終えることができそうである。  
各教科での平均点の上昇。実力テストや全国調査での優良な結果。  
学級の中にお互いを尊重し合い、学びあいの雰囲気が出てきた。
  - ・「表現力」の定義についての検討。  
(成果) → 「表現力」  
＝その単元で身に付けた知識や技能を使って表現する力。  
＝「表現するための知識・技能」＋「思考の時間の確保」の結果。
  - ・地域公開授業の実施。  
(成果) → 全学級の授業を公開し、保護者・地域・教育関係など総勢150名の参加を得た。大勢の人が見ている前で、生徒はイキイキと表現することができていた。
- 教育課程検証の方法
  - ・全国学力調査の結果分析。  
(○総合的な学習の時間の充実感が強い ○国語・数学・理科の授業が好きな生徒が多い ●土日の学習時間が短い)
  - ・保護者アンケートの結果分析。  
(○総合的な学習の時間への評価 ○授業の工夫 ○TTによる指導 ●学習の苦手な生徒/得意な生徒への手立て)
  - ・授業評価の結果分析。  
(2学期末に実施→3学期に集計予定)
  - ・学校評価(教員)の結果分析。  
(3学期に実施予定)